

質疑応答表

質問（実施順）	回答		
	株式会社明日香 ①	シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社 ②	株式会社理究キッズ ③
放課後かまくらっ子の管理運営についての基本方針をワンフレーズで表すと	「子ども達の自主性と放課後かまくらっ子の関わる様々な人、地域との繋がりを大事に運営していく。」	「放課後かまくらっ子の在り方をもう一度再認識すること。」	「継続性を第一に運営していく。」
職員（支援員）の育成、確保について	現在、勤務している支援員の継続雇用を最優先に考え、不足部分は、市内在住で、支援員の資格を持っている方を採用していきたいと考えている。	既存の支援員については、継続勤務する候補者も選定済みであり、提携している大学からも募集を行う。また、全国の施設を運営する中で、募集のノウハウも生かしながら、効率的な募集を行い、採用を目指していく。	既存の支援員の継続雇用は大前提であるが、それ以外にも地域に根差した方々を雇用していきたい。地域人材の確保にあたっては、市役所や自治会、地域の皆様にご紹介していただき、地域に明るい方を採用していきたいと考えている。
コロナ禍における利用児童、保護者との関係性について	コロナ禍において、いつ何が起こるかわからない状況のため、その状況に応じ、現場と本部が連携して前を向いて進んでいきたいと考えている。	3つの柱(遊び・学習・生活支援)を軸にプログラムを展開しており、コロナ禍においてはオンラインを取り入れて活動の場を提供している。コロナが落ち着いたら地域の方に来ていただき、対面での交流に戻していきたいと考えている。一方で、全国子どもたちが繋がるというオンラインならではのプログラムも発見できたので、これは継続的に実施していきたいと考えている。	直近でも、大学と提携したスポーツプログラム(テニス、空手)がコロナの影響で中止となってしまった。コロナ禍においては、オンライン中心のプログラムが多くなってしまったが、コロナが落ち着いた際には、人と人との関わりが持てるようなプログラム、表に出て行って、鎌倉の良さが実感できるような体験プログラムを多く実施していきたい。
かまくらっ子と保護者及び学校との連携について	運営開始時には、本部担当者と現場責任者とで学校へ挨拶に行き、その後の学校施設の利用については責任者が調整を行う。大きなイベント時や地域との関係保つために学校と連携したい時は、本部担当者も出向くようにする。保護者とは、お迎え時のコミュニケーションや連絡帳を含め、保護者と簡単にやり取りができるようなコミュニケーションツール等を導入したいと考えている。	現在運営する放課後かまくらっ子では、活動の様子を見るため、学校の先生も訪れてくれており、その際に子どものことで話し合う等、自然な形で連携が取れている。保護者とは、お迎え時等に他愛ない会話を交わす等して良好な関係が築けている。学校側にも自分達のことを信頼してもらうことが必要であると考える。不登校の子がかまくらっ子を通じて、また登校できるようになったという事例もある。今後も学校からも頼ってもらえる存在になるよう、信頼を積み重ねていきたい。	普段の施設運営の中で校庭・体育館を利用する際には、利用前と後に必ず学校に連絡をしている。また、情報交換のため、学校へ電話を入れさせていただくケースもあり、お会いできない中でも、コミュニケーションをとり、情報共有しているところである。保護者にはお迎え時に必ず話をするようにしている。また、統括責任者を中心に、メールやHP等を用いて情報交換を行っている。
業務管理上の事故防止、防犯等の危機管理体制、安全指定運営できる体制の確保について	学校との距離がある施設については、事前に移動経路を確認し、危険箇所は記録し、現場及び本部に周知したいと考えている。学校と施設間の移動の際は必ず2名以上の支援員を配置して、安全性保つようにと考えている。	最近ニュースであった下校中の事故等の事例を子どもたちに伝え、日常に危険があることを子どもに教えることが大切であると考えている。避難訓練はもちろん、会社独自の子ども向けのマニュアル(DVD)があるので、それを定期的に見せることで、子ども達が対し、危険について認識できるようにしている。	現在、運営しているかまくらっ子でも学校と距離のある施設があり、定期的に学校から下校指導等の連絡をもらうようにしている。下校指導を元に、特に低学年については、慣れるまでは支援員が付き添う等して安全に移動できるようにしている。

<p>コーディネーターの地域人材活用と、地域とかまくらっ子の連携について</p>	<p>現在、コーディネーターとして勤務している方を採用したいと考えている。また、地域との連携に関して、力がある人の採用はしていきたいと考えており、イベント時を含め、日常生活の中でも地域と連携していきたい。</p>	<p>既存のコーディネーターは、やはり地域のことをよく知っているため、地域と繋がるためには、地域の方に任せることが一番だと考える。 地域との連携については、例として現在運営するかまくらっ子では、SDG s の取り組みを行っているが、この取り組みで地域の方と繋がったことがある。SDG s の取り組みは鎌倉地域の連携のためには基本であると感じたので、このような取り組みは今後も継続していきたい。</p>	<p>現在運営する3施設のコーディネーターは、鎌倉市の職員となっている。地域との関わりが重要なことは理解しているため、本来は、地域に明るい方をお願いできればというのが一番であるが、現在勤務するコーディネーターの継続雇用についての優先度についても理解している。施設の中にも地域に明るい職員もいるため、コーディネーターと一体となって、地域と連携を図れるようにしていきたいと考えている。</p>
<p>乳幼児親子の受入れ体制と利用者数の向上について</p>	<p>現在、管理運営している放課後かまくらっ子たまなわでは、乳幼児の利用が毎日あり、開かれた場所として運営できるように整備をしていく。 支援員の中には、保育士、子育て支援員の資格を有している者もいるので、悩み等あれば、一つのきっかけとして相談を受けられるような体制がとれている。 乳幼児親子向けの講座や大型遊具を取り入れたイベントを開催し、利用率の向上に努めていきたい。</p>	<p>現在運営する施設では、乳幼児利用は1歳から未就学の利用が多く、「どこに行けば、同じような乳幼児と集まれるのか」という声をよく聞くので、9月からは、乳幼児向けのプログラムを定期的に行う予定である。 また、子育て相談もできるような体制を整え、地域での受け入れを行っていききたい</p>	<p>放課後かまくらっ子の施設が乳幼児を受け入れていることを知らない方もいるので、施設前に掲示物を貼り、周知を図っているところである。保護者同士が相談できるような場となるよう今後も周知していきたい。</p>
<p>施設利用上の新型コロナウイルス感染症対策について</p>	<p>施設では、必ず遊具等の消毒を行い、利用者に関しても検温・消毒を行い入室してもらうことで対策をとっていく。</p>	<p>施設利用時には、検温、手洗い、うがい等を医学的な根拠の元、指導している。 今後においては、使用するおもちゃについてもナノソーム効果を取り入れる等、職員の負荷がかからないよう範囲で対応していきたいと考えている。</p>	<p>様々な児童が利用する施設であるので、保護者・子ども・支援員についても基本的な感染対策(換気・検温・手洗い・遊具の消毒)の徹底を行っている。</p>
<p>アフタースクールにおけるプログラムの内容とその周知について</p>	<p>イベントの周知は、会社独自のHP、ツイッターを活用し行っており、現場では、イベントカレンダーを配布する等して周知している。乳幼児親子に対してもイベント時にSNS等を利用し周知している。 今後も現在行っている方法より、さらに向上させて周知を図っていききたい。</p>	<p>施設によって、学校を通したお知らせを配布しているところとしていないところあるが、今後は統一しての配布を予定している。 来年度からは、新たに「ハブノート」というアプリを導入し、緊急連絡用の手段に付随して、お便りや活動写真の掲載、入退室等の管理をしていく予定である。</p>	<p>アフタースクールの保護者は、お迎えがなく、コミュニケーションをとる機会が少ないため、イベント等の周知は、一斉メールを用いて行っている。また、HPを毎月更新してイベント時の様子を把握してもらえるようにしている。</p>
<p>アフタースクールの利用率向上について</p>	<p>アフタースクールにおいては、放課後の時間を校庭等で遊ぶこともあるが、かまくらっ子登録者とそれ以外の子どもが一緒になって遊ぶのは難しいという現状がある。それを解消するため、保護者に対しアフタースクールの周知をお行い、利用者を増やしていきたいと考えている。 また高学年向けのイベント等を企画して、全体の利用率を上げていきたいと考えている。</p>	<p>高学年向けにプログラミング等のイベントを実施していきたいと考えている。</p>	<p>高学年の利用が上がらない要因として、家での留守番可能となる、習い事が始まる等により、放課後かまくらっ子を利用しなくても生活が成立してくるといったことが挙げられる。そうしたことで友達が来ないから、行きたくなくなるといった循環が生まれて言うように感じる。 逆にとらえれば、友達がきて楽しいとわかれば、利用は増えるので、高学年に何か役割等を与えて楽しいと思ってもらい、それを見た低学年が同じように楽しいと感じてもらい、そのような環境を整え、高学年の利用率も向上するようにしていきたい。</p>

<p>特別支援学級に通う児童や配慮が必要な児童に対する支援について</p>	<p>学校、保護者に対しても、気になることがあった時を含め、事前に情報が分かれば、過ごし方の提供等、しっかり打合せを行い、その都度話し合いながら快適に過ごしてもらえよう環境を整備し、受け入れを行っていく。 子どものことを知ることが大事なので、話し合いを重点的に進め、現場、本部でも共有していく。また、支援員に対しては、研修を実施し、質が向上するようにしている。</p>	<p>配慮や対応が必要な子どもに対しては、前向きな関わり方を重視して接するようにしている。支援員との関わり方から、施設での充実度が図れるため、まずは支援員と子どもの関係性を築けるよう、子どもの気持ちを受け止めつつ、子どもが楽しめるよう支援員の研修を取り入れ始めている。 現在運営する放課後かまくらっ子にも、特別支援学級の子どもがいるが、前向きに関われる環境設定に努めている。</p>	<p>子どもによってケースが様々であるため、支援員には何かあれば、必ずメモを取って報告するようにと指導している。上手くいかないこともあるが、仮説を立てて試して、を繰り返しながら、様々なケースごとに良い対応ができるようにしている。それ以外にも、内部研修を実施し、支援員の対応能力を向上させているところである。</p>
<p>財務に関する質問全般（未納者への対応について）</p>	<p>基本的には、翌月末までに支払いをお願いしており、遅れてしまった時は個人的に連絡を行う場合もある。 長期に渡り支払いがない場合は、訪問も行うこともあるが、平均すると2カ月以内には納めていただいている状況である。</p>	<p>基本的には、6カ月以内にお支払いしてもらえるようにしており、6カ月を超えると長期の未収金扱いになる。</p>	<p>利用料金については、95%以上が納入されており、未納は少ない状況である。現場では現金は取り扱わないように徹底しており、銀行もしくはコンビニ振込としているため、納入されないという家庭はかなり少数となっている。</p>
<p>加入している保険や緊急時のリスク管理について</p>	<p>会社で保険に加入しているため、事故時や何かあった場合には、その保険で対応できるようにしている。</p>	<p>施設ごとに総合賠償責任保険に加入しており、子ども達も個人保険に加入し、対応している。</p>	<p>元々、各施設が直営時に加入していた保険の内容に準じたものに加入し、それに加えて施設で賠償保険に加入している。</p>
<p>勤務する支援員の質の向上について</p>	<p>事前研修も含め、継続的に研修を実施し、職員の質の向上を目指している。</p>	<p>職員の資質向上のため、様々な研修プログラムを用意している。また、各施設の施設責任者を集めて定期的にミーティング実施を実施している。</p>	<p>毎月のスタッフ会議では、日々の業務報告に加えて、研修を実施している。最近では、熱中症対策として、管理栄養士による研修を実施したところである。 また、障害児への対応として、研修に加えて事例研究会を行い、一つの事例を元にどのような対応を行うか、支援員同士で意見交換を行った。さらに行政が行う研修や専門家による研修にも積極的に参加することで、支援員の資質向上に努めている。</p>